諏訪

暮らし関連事業に力

原村 公共交通実証実験など

町村の予算

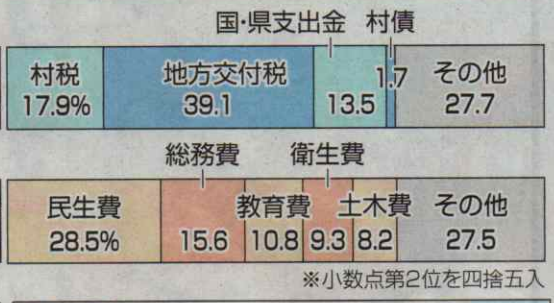
原村は21日、総額42億1600万円の2022年度一般会計当初予算案を発表した。前年度当初比2・2％増。公共交通の実証実験に500万円、村資源を生かした地域活動団体を支援する事業に150万円など、生活しやすい村づくりに力を入れる。

農業後継者が対象の補助金を新設。ワイン用ブドウの苗木や資材購入費の補助制度に120万円、6次産業化のための機械や施設整備費補助に300万円を盛った。

公共施設の屋根への太陽光発電導入について調べる委託費に500万円。茅野市、富士見町との共同宣言に伴い、既存住宅に太陽光発電などを設置する際の県補助制度に上乗せする事業も始める。22年度建設予定で国補助事業を申請中の子ども・子育て支援センター建設関連費2億550万円は21年度一般会計補正予算案に計上。可決されれば22年度に繰り越す。

村税は3・6％増の7億5600万円、地方交付税は7・7％増の16億4800万円を見込む。村債は52・3％減の7320万円。

原村22年度予算案
総額42億1600万円



※小数点第2位を四捨五入

主な事業（万円）

生活環境	
公共交通実証実験（新）	500
地域づくり支援事業（新）	150
既存住宅エネルギー自立化補助金（新）	100
再エネ設備導入ポテンシャル調査業務委託（新）	500
子育て・福祉	
保育園テラス屋根補修工事（新）	1540
保育園外壁塗装工事（新）	1019
老人医療費特別給付金	8000
産業振興	
経営継承・発展等支援事業（新）	300
6次産業化支援事業補助金（新）	300
ワイン用ブドウ苗木等購入補助（新）	120

河川改修や防災 重点

富士見町 89年度以降最大規模

富士見町は21日、総額83億9千万円の2022年度一般会計当初予算案を発表した。前年度当初比11・7％増で、1989年度以降で最大規模。道路や河川の改修、防災施設整備など関連4事業に計7億1200万円を盛った。

地域運営支援チームを立ち上げ、集落への補助金や人的支援を検討。住宅用の太陽光発電パネルや蓄電池の設置に対する県補助金に上乗せする事業には125万円を計上した。地球温暖化対策実行計画の策定やゼロカーボン戦略調査費も盛り込んだ。

町出資の一般社団法人富士見パノラマリゾートの借入金に対する損失補償は、最高限度額を21年度の4億円から2億円に。新施設設置などのため19年度から行っていた観光施設貸付事業特別会計への5千万円の繰り入れはしない。

新型コロナから一定の回復を見込んで町税は5・9％増の24億2500万円。地方交付税は8・8％増の23億4千万円とした。町債は100・3％増の7億7千万円で、主にインフラ整備に充てる。

富士見町22年度予算案
総額83億9000万円

※小数点第2位を四捨五入

主な事業（万円）

基盤整備・防災	
道路施設予防対策工事	2億5600
橋の点検・補修設計・補修工事	3億6900
持続可能なまちづくり	
地域運営支援チーム（新）	257
既存住宅エネルギー自立化補助金（新）	125
ゼロカーボン戦略調査（新）	198
産業振興	
工業の事業拡張・移転などの補助事業（新）	4000
静岡県民誘客事業（新）	3000
出産・子育て	
子育て応援券発行事業（新）	175
第1子出産祝い金支給事業（新）	400

2代目コーヒー移動販売車 発進

富士見の店主 支援者らと再開を祝う

2代目車両を提供した谷さん家族と談笑する荒川さん（左から2人目）

富士見町の装丁家・流木造形家の荒川じんぺい（仁平）さん（75）が営むコーヒーの移動販売店「野点庵（のだあん）」が19日、営業を再開した。車両故障で休業していたが、2代目車両を譲り受けて再出発。出店した同町の井戸尻史跡公園には支援者らも駆けつけた。

旧車両は1月にエンジンが故障して再起不能に。途方に暮れる荒川さんが新車両で同公園に到着すると、支援者らが除雪して待ってくれていたという。

新車両を譲った山梨県北杜市の鈴木徳幸さん（60）家族も訪れ、再開を祝福。鈴木さんは「自分が使っていたときとは違う雰囲気で驚いた。活躍してほしい」。荒川さんも「ようやく開くことができ